



藻岩高校ICTだより



R08-01 号 2026.8.19 教務情報部

生成 AI サービス「Gemini(ジェミニ)」の「Canvas(キャンバス)機能」、およびそれを活用した事例を紹介します。

◆ Canvas 機能とは？

通常 Gemini とのやり取りは「質問して回答を受け取る」という一問一答の繰り返しですが、Canvas 機能を使うと、Gemini と一緒に 1 つの文章や Web アプリを編集して作り上げていくことができます。

Canvas 機能を使用して Gemini に質問すると、左側に「チャット(対話画面)」, 右側に「Canvas(編集エディタ)」が配置されます。以降は、左のチャットで指示をすると、右の Canvas にある文章やプログラムコードが編集されていきます。もちろん Canvas 内を直接編集することも可能です。

▼ Canvas 機能を使っている様子



◆ 活用事例:授業で使える教材アプリを作成してみた

言葉や図だけではイメージしにくい物理現象を視覚的に理解させるため、Canvas 機能を使ってインタラクティブな教材アプリを作成してみました。

1. Canvas 機能を有効にして、指示を出す

Gemini でプロンプトを入力する際に「**[+]**ボタンを押し、**[Canvas]**を選択しておくことで機能が有効になります。その状態で「高校物理の『振り子の運動』を体験できるアプリを作って。糸の長さやおもりの質量を自由に変更できて、その時の周期の変化がアニメーションで観察できるようにして。」のように、作りたい教材の指示をプロンプトに入力します。

2. プレビューを見ながら AI と微調整

しばらく待つと、右側の Canvas にコード、およびそのコードで作られたアプリのプレビューが表示されます。出来上がったアプリを確認しながら、たとえば「グラフも一緒に表示して」「重力加速度を変更できるボタンも追加して」などのように、満足のいくまで追加の指示を出しながら修正してもらいましょう。

3. 完成したファイルを保存・共有

完成したアプリは  (ダウンロード) ボタンから HTML ファイルとして保存したり、 (共有とエクスポート) ボタンから、Classroom へ直接投稿して生徒に使ってもらったりすることもできます。

▼ 実際に作ってみた教材アプリ



◆ さいごに

「アプリ作りなんて難しそう…」と思われがちですが、コードはすべて AI が書いてくれます。必要なのは「こんな教材があったら授業に役立つな」「こんなアプリがあれば生徒が喜びそうだな」という先生方の経験に基づくアイデアです。

最初は「こういうアプリ作れる？」と Gemini に話しかけてみるだけでも、どんどんアイデアが発展していきますので、ぜひ試してみてください！

▼ 各教科での活用アイデア例

理科	3D 分子モデル、遺伝シミュレーション
数学	二次関数や図形の動的変化ツール
地歴公民	需要・供給曲線の動的シミュレータ
音楽	「リズム・コード進行」試聴アプリ